

令和6年度 村椿小学校アクションプラン —2—

重点項目	学力向上
重点課題	「よく考える子」の育成【きりっと つばきッズ】
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもつことはできるが、それを表現することを苦手とする児童が多い。また、友達と関わり合い、自分の学びを自己調整していくことにも課題がある。 ・相手の話をよく聞いている児童が多い。しかし、最後まで聞かずに勝手に話し出したり、よく考えないで発言したりする児童も少なくない。また、話を聞くときの姿勢（相手を見る・背筋を伸ばす等）が身に付いていない様子も見られる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・強調週間を設け、学習中に自分の考えを表すこと（発言、ハンドサイン等）ができる児童の割合が全体の80%以上になることを目指す。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるにつれ、自分の考えを表すために必要なスキルが確実に身に付いていくように、「つばきッズの学習ルール（下・上学年用）」「目指せ！聞く・話すウルトラ名人」「声のものさし」「ハンドサイン」等の学習ルールに関わる資料を各教室に掲示し、村椿小の学習ルールとして全校で統一して指導する。 ・まずは「聞くこと」に重点を置く。相手の話を考えながら聞くことで、自分の考えをもつことができ、考えを表すことができる。その際、ハンドサイン等を活用し、児童が考えながら話を聞いているかを細やかに把握する。 ・玉椿集会等の行事は全校に向けて自分の考えを発信する大切な機会と捉え、一人一人が自信をもって発表できるように学級と家庭で練習を見届けていく。また、「聞くこと」「話すこと」における自己調整ができるように、発表後に振り返りの場をもつ。
外部評価者	学校運営協議会委員
公開の方法	学校便り、ホームページによる公開
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドサインを生かした意図的指名を行った。自発的な発表だけでなく、いつもはなかなか発表することがない児童の意見も授業のねらいに沿って取り上げていったことで、全体の考えを深めることができた。 ・ペアやグループで話し合うなど学習形態を工夫することで、安心して自分の考えを表す児童の様子が見られた。 ・玉椿集会の発表をよい機会と捉え、自信をもって発表できるように、各学級において練習やりハーサル等をしっかり行った。また、家庭へ「玉椿賞を受賞したこと、発表すること」を連絡し、練習の見届けや励ましの協力をお願いした。また、発表後には教室で受賞者を称賛して感想を交わしたり、家庭には児童の頑張りや協力のお礼を伝えたりした。玉椿集会での発表を通して、多くの人の前で自分の考えを発表する心地よさを味わうことができた。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・「できるようになったかな」チェック週間（6月と11月に実施）において、2回目の11月の調査では、できていた（5日のうち4日以上が○だった）児童の割合は「先生や友だちの話を、相手の方を見て、最後までよく聞くことができた」が94%、「学習中に、自分の考えを表すこと（発言、ハンドサイン等）ができた」が89%だった。この2項目について、いずれも目標の80%を上回り、1回目の6月の調査（91%と82%）からも伸びを見せた。 ・ハンドサイン等を促すために教師から積極的な声かけを行った。「同じです=Goodサイン」を習慣化させたり、授業の中で全員がハンドサインで自分の考えを表すときを設定したりしたことによって、どの学級にもハンドサインの浸透が見られ、自分の考えを表す手段の一つとして定着しつつある。 ・年間を通して行った来校者や校外学習先の方々へのアンケート結果では、「話す人の方を見て話を聞いていた」「進んで発言しようとしていた」の項目で13人中10人が「よくしていた」と評価し、よい結果であった。
評 価	A
外部評価者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと」は共に児童の発達段階によって差があるのではないかと。達成度については学年ごとの細かいデータを取り、今後の方策に生かしていくことが望ましい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと（表すこと）」共に目標の80%を達成したが、「聞くこと」「話すこと（表すこと）」に5%程度の差が見られ、「話すこと（表すこと）」に関して、より向上を目指すための方策が必要である。名前を呼ばれたらはっきりと相手に届く声で返事をする、気持ちのよい挨拶をするなど、日常生活から相手を意識して声を発することに慣れさせたい。また、授業ではハンドサインやペア・グループでの話し合いを取り入れるなどして、全員参加を目指す。さらに、玉椿集会等を生かして、多くの人の前で発表する機会を設定していく。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)